

# 武蔵野市第五期長期計画 圏域別市民会議（西部地区） 議事要録

- 
- 日 時 平成 23 年 10 月 22 日（土）午前 10 時 00 分～午後 0 時 02 分
- 場 所 スイング 10 階 スカイルーム
- 出 席 山本泰委員長、見城武秀副委員長、  
小竹佐知子委員、近藤康子委員、作部径子委員、松本すみ子委員  
井上良一委員  
事務局（企画政策室長、企画調整課長、政策調整担当課長他）  
市 民（16 名）
- 

## 議 事

・委員長より会議の趣旨説明、委員紹介、第五期長期計画案紹介の後、西部地区市民との意見交換が行われた。

境 : 福島原発事故後の最大の懸念は、放射線の子どもへの影響である。計画案にはこの対策が全く取り上げられていない。第 5 章「重点施策」に放射能汚染からの安全確保を盛り込んでほしい。その中身として、学校給食の各調理場における全数検査、校内の細かい土壌検査と除染を要望する。長期計画に盛り込まれないと予算どりが難しくなるのではないか。

委員長：長期計画では危機管理体制の確立について記述しているが、除染などは早くしなければならぬので、各学校の対応について長期計画にどのように盛り込むか検討している。予算項目のすべてが長期計画に書かれていないと身動きがつかないということではない。

境 : 放射能汚染対策について、第 4 章 2 の 2)「本市における東日本大震災の影響」、3「本計画期間における基本課題」、第 6 章Ⅱ子ども・教育の項目に、具体的な対策を特記してほしい。市役所はトップダウンなので、上層部の意思表示が必要だ。

委員長：第 6 章Ⅲの基本施策 8「多様な危機への対応の強化」、Ⅳの基本施策 5「生活を取り巻く様々

な環境の変化に伴う新たな問題への対応」がご要望に対応しているが、具体的な項目については検討する。

副委員長：武蔵野市の給食の食材の放射線測定は他の自治体に比べても充実しているが、ご心配はよくわかるので、記述については検討したい。

吉祥寺南町：武蔵野市は非核都市宣言をしているが、長崎、広島だけでなく、福島もノーということが非核ではないか。第5章の「重点施策」に平和に関する項目をふやしてほしい。第6章Ⅲの基本施策2の(3)「平和施策の推進」にも、武蔵野市平和の日の制定も含めて、書き込んでほしい。「はじめに」の「2) 環境意識を行動に移そう」にも、非核、脱原発、新エネルギーへの方向性を書き込んでほしい。

委員長：市としてどういうことができるかということも含めて、検討中である。

境南町：第5章に「街の超長期的なビジョンにもとづく公共施設の効果的な配置」とあるが、これは都市マスタープランと市民のまちづくりのビジョンがベースになるので、市民のビジョンに基づいて検討するという順序であるべきだ。西部図書館跡地も歴史資料館をつくと決めるのではなく、地域住民と情報を共有し、全市的なレベルで、市民のビジョンに基づいて十分検討してほしい。

第6章Vの基本施策7「三駅周辺まちづくりの推進」で、武蔵境地区のムーバスの路線網の検証の中身を教えてほしい。

委員長：長期的に住民のまちづくりのイメージが熟成していき、それを見ながら都市マスタープランのような全市的計画を形づくるという手順であることは、皆さん異論がないと思う。

西部図書館跡地は、今はさまざまな可能性を探っている段階である。都から無償で借りているので、都との交渉もある。

委員：ムーバスは、平成7年から運行開始しているが、当初の交通不便地域は解消したと思う。武蔵境地区は中央線連続立体交差事業に伴う南北一体のまちづくりの中で、住民の意見を聞きながら、路線を検討する。

境南町：第6章Vの基本施策4、(5)の「自転車利用環境の整備と交通ルール・マナーの啓発」について、「自転車に関連する事故が、交通事故全体の半数にも及んでおり」、「自転車には過度に依存しなくてすむよう」という文言に疑問を持つ。今までの交通が自動車に過度に依存してい

ること、交通事故による死者の半数近くが歩行者、自転車であり、歩行者、自転車の安全性確保が極めて重要であるという視点を取り入れるべきだ。

委員長：自動車、自転車、歩行者の共存という考え方は、おっしゃるとおりだ。

関 前：計画案に「社会教育」という言葉が全く出ていなかった。市民会館は武蔵野市における唯一の社会教育施設として、昭和 59 年の開館以来、子どもから高齢者まで多くの市民が活動の拠点として利用している。人間が生涯にわたって学び続けることは、生きる喜びにつながる。社会教育の必要性、市民会館の重大な役割について、長期計画に入れてほしい。

委員長：社会教育、生涯教育と市民参加を一体として盛り上げていくことは全市的な課題だが、個別の施設について書き込むほど議論が熟していない段階だ。ご趣旨は十分に踏まえさせていただく。

桜 堤：第 6 章 I の基本施策 5 「住み慣れた地域での生活を継続するための基盤整備」に、軽費老人ホームくぬぎ園の記述があるが、建てかえか改修か、何年ごろ行われるのかを知りたい。今の機能が全くなくなることはないように、多機能型老健施設の検討をお願いしたい。

委員長：「建てかえ」というと機能は全く同じで建物が新しくなるというイメージがあるが、そうでなく、今の機能も大切にしながら新しいニーズも含めた施設にするということで「再整備」などといった。くぬぎ園も同様である。整備時期は検討中である。

吉祥寺本町：中長期計画を考えると、放射能対策は必ずあるべきだが、計画案には具体策が余り示されていない。市民測定所を開設し、給食の安全の確保、除染を進めるという計画の追加をお願いしたい。

省エネルギー型社会の構築では、自然エネルギー企業の誘致や、市民も選んで使える自然エネルギーへの転換のモデル都市になってほしい。

委 員：放射能の問題は、10 年計画よりもっと早い決断でやらなければならない課題と、10 年計画よりはるかに長いスパンで考えなければいけない課題があり、その間で 10 年計画は微妙な位置づけにあるが、だから外すということではなく、深く考えていかねばならない。

自然エネルギーの利用については、現在、武蔵野市では雨水利用の助成金制度があるが、市民に余り利用されていない。自然エネルギーを取り入れるシステムをつくるだけでなく、それを広く利用していただく道筋をつけないと感じている。

関 前：放射能汚染はみんながすごく気になっているところなのに、計画案にはきちっとした課題として載っていない。具体的に明記してほしい。緑・環境の基本施策5に「国等との適切な連携が重要となる」と書いてあるが、今の状況では、国との連携をとってはい間に合わない。市でできることを早急に考えてほしい。市で食品も土壌もはかれる測定機を購入し、市民で協力し合って汚染マップをつくるなどすれば、子どもに安全な環境をつくることができる。

委員長：市民の安全・安心、リスクについての学習の機会とか、市として取り組めることをもう少し書き込みたい。

委 員：市の現在の取り組みを説明する。原発事故以来、市長への手紙等、さまざまな形で市民の意見をいただいている。現在、校庭を中心に70カ所で定期的に放射能を測定し、逐次公表している。今、要望が一番多いのは除染である。市は当初から担当部署を設け、検討を進めている。施策の原則は長期計画に書かなければならないが、長期計画に書いていなくても、大震災のような想定外の事象には当然対応していく。

委員長：安全・安心には知らせることも非常に重要な要素なので、計画案には広報・広聴を丁寧に行うことを盛り込んでいる。

境南町：生涯学習は、住民のお互いのチームワークが主体になると思う。多摩地域の小金井市、府中市、八王子市等とチームを組んではどうか。

委員長：生涯学習、社会教育には、1人1人が自由に学ぶ、住民同士がつながりをつくる、それを通して行政と協働するというさまざまなレベルがある。その全体をどのように体系的に進めていくか。他自治体から学べるところは学び、一緒にやれるところはやっていきたい。

関 前：武蔵野市はコミュニティセンターを推進するまちとして知られている。市民会館で学んだ市民がそれぞれの地域に帰って、コミュニティセンターで活動を続けている例も多い。市民会館には、各種団体やサークルの活動の目的にかなった設備があるので、長期計画の中に社会教育施設の大切さを盛り込んでほしい。

委 員：社会教育、生涯教育で学んだことを地域に持ち帰り、参画、協働というサイクルをつくっていくことは、後継者不足、世代交代という意味でも重要である。ただ、市民会館も開館から27年たっており、今後10年を考えて、時代に合った使い方を面的に考えることが必要だ。

境南町：この長期計画は、自動車依存社会からの脱却という視点に全く触れていない。死亡に至る重大

な交通事故の 98%は自動車によってもたらされている。自動車は CO<sub>2</sub>排出にも重大な影響を及ぼしている。公共物である道路の占有率も圧倒的に大きく、自転車、歩行者に安全な環境がつかれない。駐車場確保のために緑が伐採されるなど、すそ野の非常に大きい問題である。障害者などに必要であることは十分わかるが、市として、自動車の利用を控えることを積極的にアピールしてほしい。

副委員長：自動車への過度の依存からの脱却は、私もそのとおりだと思う。これまで自動車を使っていたところを自転車で移動するという選択肢は現実性がある。自転車が使いやすい社会づくりに、自分のできるところから携わっていきたい。

委員：武蔵野市の市民交通計画には、自動車に過度に依存しないということも含まれている。駅に集中する自転車については、市、鉄道事業者、商店街の負担で駐輪場を整備しているので、「過度に依存しなくてすむよう」という考え方を入れて、公共交通、バス、タクシー、福祉交通のレモンキャブ、デマンドタクシー等について検討を進めている。

境南町：それならば「自転車に過度に依存」という一般的表現でなく、その趣旨を的確に反映する文言にしたほうがよい。駅に集中しないように、会社や学校まで自転車で行ける安全な走行環境の確保が必要だ。

桜 堤：クリーンセンターは平成 29 年に新施設移行ということだが、処理能力の増減を知りたい。ごみはふえていると思うが、生ごみは土壌に返すべきだ。コンポスト化することを計画案に盛り込んでほしい。

委員長：今、生ごみは水分を減らすことを市民にお願いしている。吉祥寺など大きい商業集積のあるところでは、生ごみを回収してガスをつくることも考えられると思う。

委員：桜堤団地のような大規模な集合体だと、ごみから新エネルギーをつくる仕組みがつけると理想的だ。コンポストで土に返すには、食べ残しとりんごの皮のような廃棄量をきっちり分ける必要がある。新しいクリーンセンターができて、市民 1 人 1 人が気を引き締めてごみを減量しないと、処理量をすぐ超えてしまう可能性がある。学習や啓蒙が必要だ。

委員：新クリーンセンターの焼却量は 3 万トンで、今、市民が出されている量は既に 3 万トンを超えている。平成 29 年の稼働までにごみを減量するという課題がある。メタンガス化等の処理方法については、府中市を中心に検討中である。ごみの処理は 1 つの自治体だけでは困難で、広域連携が必要だ。日の出町の焼却場でエコセメント化するという最終処分は継続する。

桜 堤：放射能対策を市役所にお願いすると、必ず予算の壁にぶつかる。長期計画に盛り込めば、もっとスムーズに進むのではないか。また、放射能問題はこれから長いつき合いになるので、窓口を一本化してほしい。

委 員：窓口は環境政策課に一本化している。

境 境：放射線量について、給食は調理場ごとにリアルタイムで測定してほしい。海外の測定機などについて、個人的に問い合わせたり勉強しているので、委員と情報交換させていただきたい。

境 境：先ほど放射能対策はなかなか長期計画に盛り込みにくいという委員の話だったが、この長期計画は 24 年度からの話で、そんなに先のことではない。また、30 年、50 年、ずっと続いていく問題なので、必ず 10 年ごとの長期計画に継続して盛り込んでほしい。

委 員：スパンが入りにくいから書かないということではなく、うまく盛り込んでいくように努力する。

吉祥寺南町：市民参加について、「武蔵野市方式の継承」と書かれているが、5 年後、10 年後によりよい方式を求めていくと考えてよいか。私は、ことしのやり方は非常に不満だ。公募市民委員を 5 人にする、各コミセンでヒアリングをすることを提案する。将来は、自分のまちの青写真をコミセン単位でつくれるようにならない。

委員長：おっしゃるとおりで、この計画は、市民がそれにかかわる、一步を踏み出してもらうための一種の PR としてつくっている。

境南町：西部図書館跡地を歴史資料館にするかどうかは、検討の過程にあるという理解でよいか。施設配置の基本的な考え方について、市民参加を 6 番目の項目に入れてほしい。

ムーバスについて、武蔵境から市役所、総合体育館周辺への路線を検討してほしい。

教育分野で、障害のある子どもたちとない子どもたちが一緒に時間を過ごして、お互いに理解し合うことが重要だ。そういう文言をどこかに入れてほしい。

人権のところ、虐待のない社会と書かれているが、対象が限定されるような感じがする。さまざまな分野で暴力が人権を侵害しているので、暴力のない社会を考えてほしい。

1～2 年後に、この長期計画の評価を市民参加で検討する機会をつくってほしい。

委員長：西部図書館跡地については、市民の要望、東京都との交渉を踏まえ方向性を出す過程で、皆さんの意見を伺う。

委 員：心のバリアフリー、ボランティア学習、福祉学習は、基本施策 1 に盛り込んでいる。障害を持

つ人、持たない人の交流は、子どもだけでなく大人にも必要だ。市民みんながまじりながら生きていくということがゴールになると思う。

委員長：計画の市民によるフォローアップは、私は、個別計画で比較的幅広い人たちに影響のあるテーマから始めるのがよいと思うが、検討する。

資源浪費型社会の脱却について、地域社会でライフスタイルそのものを見直し、ごみの減量、自動車への過度の依存からの脱却、節電、再生可能エネルギーの利用など、もう一步踏み込んで考え、できることはきちっとやりたい。

——— 了 ———